



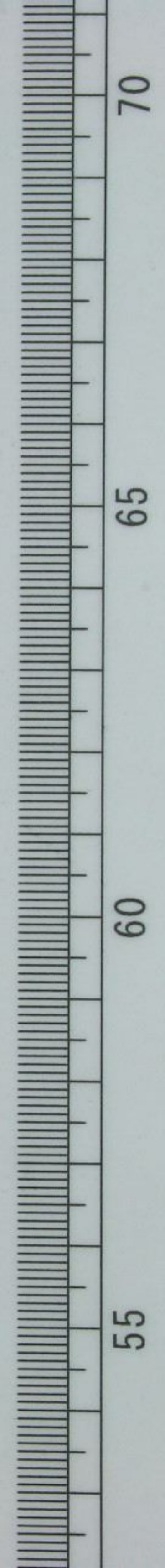
上

三月二日

卯辰司  
菫物箱  
妙法殿  
御用

惟若曲亭馬琴  
繪所松長  
板元通  
田町  
二冊  
法同  
三  
十

特別  
13  
3466  
1





門 へ 13  
號 3406  
卷 1

昭和二十七年  
三月十七日  
購

千年の  
大根の兵  
盗賊と追

千年の参化して小児とありて其搜神記の出發  
大根の兵盗賊と追をひくつれど草の方公あり  
さへんくは天地間やもごまりのあまやうであらへる  
の掃の下と戯作者の腹の中悉皆掃溜同振て何が  
出さやう氣がまきとまきと素人の献立なりであらひ  
珍珍乾物あり亦背の青りのあり年かかろど畠あり  
瓶向日増ふ似れども去歳の右根と怪入を蕪多ふ法も  
鋤鋤小手まあり作の妙黄粉穀道明寺と題する  
こく山豈ちうぐわの地口やうどや  
文らる二ツの春の雪ハ豊年ぬらの朝積つて三十九をさし  
作者頗るうやむや序と

江戸

曲亭馬琴













それいそがしく大がかりや  
 んびどがやきまのそくま  
 マあつ仕人のくろしげに  
 のせむらひおしじけるは  
 ぐらやが子とくまのそく  
 とのころくざらやたあぞ  
 こころんちんたのあれは  
 こころんちんたのあれは  
 めんれいもくがやハ  
 りりりりりりりりりりり  
 りりりりりりりりりりり  
 ちやちやちやちやちや  
 らせられぬやうあま  
 よふまぬれてまのひ  
 まさりあんなあとの  
 らびとぬきまのころつら  
 とおろろろろろろろろろ  
 らとほののののののの



あつちやうまがやうまのちと  
 ままのままつこられうまのまま  
 又ままのままねとままのまま  
 ままのままのままのままの  
 おまのままのままのままの  
 ままのままのままのままの  
 ままのままのままのままの  
 ままのままのままのままの

あつちやうまがやうまのちと  
 ままのままつこられうまのまま  
 又ままのままねとままのまま  
 ままのままのままのままの  
 おまのままのままのままの  
 ままのままのままのままの  
 ままのままのままのままの  
 ままのままのままのままの

あつちやうまがやうまのちと  
 ままのままつこられうまのまま  
 又ままのままねとままのまま  
 ままのままのままのままの  
 おまのままのままのままの  
 ままのままのままのままの  
 ままのままのままのままの  
 ままのままのままのままの

こがしなごそのあまご  
 ぬれてくがらやがらび  
 ふくろとひまろくどろ  
 ドロくせしんらんらん  
 あがりくむらやがま  
 しんらんらんらんらん  
 らまけ入りられんらん  
 ままらんらんらんらん  
 ありしらんらんらんらん  
 まらんらんらんらんらん  
 ららんらんらんらんらん  
 ついでせんと  
 あまごけこと  
 うそせられ









あんわんはりつつけぬ  
金くんと百あどりひ  
て大ふんりつわーこ  
くきのつねあまま  
ひあふあどとてうの  
金えとあどまのり  
一でうふつてく八百や  
とせのまげーの  
くあふく  
か

石言遺言  
三ふりけんあふらと里

稚枝鳩  
たふれれ全  
ひまろほ入  
うしやそ  
アのあふ  
んえんあ



あふらと里  
たふれれ全  
ひまろほ入  
うしやそ  
アのあふ  
んえんあ



